

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者	
病態生理学	1年次 後期	必修	講義	1単位（30時間）	小池 敦 ※	
授 業 概 要						
形態機能学の知識をベースとして、正常な人体の機能調節維持メカニズムがどのような原因で破綻し、その結果としてどのような症状・徴候・所見を呈するのかについて学ぶ。						
到 達 目 標						
1. 健康と病気（正常と疾病）の違いを説明できる。 2. 病気の原因や発生メカニズムと人体の形態機能への影響について説明できる。						
実務経験のある教員						
小池 敦：臨床経験を踏まえ、病気の原因や発生メカニズムと人体の形態機能への影響について概説する。						
回	学 習 内 容				担当教員	
1-2	1. 病態生理学を学ぶための基礎知識 1) 病因論（内因と外因） 2) 循環障害 3) 細胞・組織の障害 4) 先天異常と遺伝子異常 5) 老化と死				小池 敦 ※	
3-10	2. 皮膚・体温調節のしくみと病態生理 3. 体液調節のしくみと病態生理 4. 恒常性維持のための流通機構の異常 1) 血液のはたらきと病態生理 2) 免疫のしくみと病態生理 3) 循環のしくみと病態生理 5. 恒常性維持のための調節機構の異常 1) 脳神経・筋肉のはたらきと病態生理 2) 内分泌・代謝のしくみと病態生理 6. 「動く」機能の異常 1) 運動にかかわる神経のしくみと病態生理 2) 骨・関節の病態生理 3) 筋肉収縮のしくみと病態生理					
	7. 「食べる」機能の異常 1) 咀嚼・嚥下の障害 2) 胃・腸管の障害 3) 消化・吸収の障害 4) 肝臓・胆のう・膵臓の機能障害					
	8. 「息をする」しくみと病態生理 1) 呼吸困難と呼吸不全					
	11-15	9. 排泄機能の異常 1) 腎・泌尿器のしくみと病態生理 2) 排便のしくみと病態生理				
		10. 「子どもを生む」機能の異常				
	学 習 方 法					
講義、課題学習、グループワーク						
評 価 方 法						
科目修了試験						
先 修 科 目						
なし						
教科書、参考書						
〔教科書〕 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進① 病理学 大橋健一 他 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進② 病態生理学 田中越郎著 医学書院						